

児童虐待を地域とともに考える

児童虐待防止講演会

最近、保護者などによる子どもへの虐待が深刻な社会問題となっています。児童相談所に寄せられる相談件数は年間8万件以上。困難を抱えた子どもたちに、私たちができることはあるのでしょうか。今回の講演会は保護者や教育者だけでなく、地域や一般の人にも児童虐待防止について考えてもらうきっかけづくりを目指して開催します。地域みんなが“お父さん・お母さん”になれるように、学んでみませんか。



講師の土井高徳さん

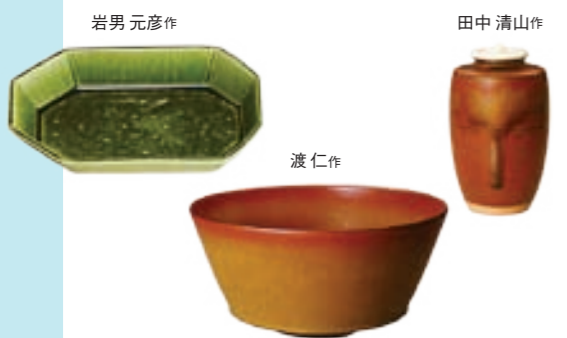
日時 ▶ 2月23日(木) 18時30分~20時
 場所 ▶ 福智町地域交流センター 入場無料
 講師 ▶ 土井高徳さん・青少年療養施設「土井ホーム」代表
 演題 ▶ 「困難を抱えた子どもへの理解と支援」
 主催 ▶ 福智町要保護児童対策地域協議会
 問 福智町役場福祉課福祉係 ☎22-7763

ecture misuse

インフォメーション & ニュース in FUKUCHI

raditional craft

今回で62回目を数える国内最大規模の公募展「日本伝統工芸展」に、福智町から渡仁さん(渡憲)の「上野ヤケ釉鉢」、田中清山さん(清山憲)の「上野鉄釉肩衝茶入」、岩男元彦さん(元彦憲)の「緑釉組皿」が入選を果たしました。陶芸部門に810点もの応募がある中、厳しい審査を経ての好成績。郷土が誇る伝統的工芸品「上野焼」の卓越した技と美への高い評価が示されました。なお、今回の入選作品は2月2日(木)から2月7日(水)までの間、福岡三越(福岡市)で展示されます。近くに行かれたときは、ぜひこの逸品をご覧ください。



岩男元彦作

田中清山作

渡仁作

第62回日本伝統工芸展

全国展で上野焼窯元から3人入選

ersonnel collection

臨時職員を随時募集しています。応募者は登録者名簿に1年間(平成29年3月31日まで)登録し、欠員などの必要に応じて選考採用します。保育士、調理員などの人材が不足しています。ぜひ応募ください。

- ▼対象 18歳から60歳まで
- ▼職種 一般事務、保育士、調理員など
- ▼賃金 職種に応じて異なります
- ▼申込 履歴書を役場総務課人事係まで提出してください。資格が必要な職種は、免許証の写しを添付。

問 役場総務課人事係 ☎22-0555



福智町臨時職員登録者募集中

現在登録している人も毎年更新が必要ですよ

人権擁護委員に近藤新一氏

地域に根ざした人権啓発をはじめ、幅広い人権擁護活動を推進している人権擁護委員。その委員として、近藤新一さん(上野)が1月1日付けで法務大臣より委嘱されました。「新人なので、皆さんの意見を聞きながら、できる限りのことはさせていただきます。地域の皆さんが安心して暮らせるように、少しでも問題解決のお役に立てれば」と話す近藤さん。任期は平成30年12月31日までの3年間です。人権擁護委員はいじめや差別、家庭や近隣トラブルなど、みなさんが生活する中で困っていることの相談に応じます。相談は無料で秘密は厳守されますので、お気軽にご相談ください。



人権擁護委員の近藤さん

▶ 人権擁護委員 近藤新一(新任・上野)
 ☎28-3082
 問 福智町役場人権同和対策課 ☎22-7764

uman rights

福智町人権擁護委員

犯罪や非行のない社会にするために

方城中2年 久保田 りおさん



犯罪や非行のない社会にするための取り組みについて考えました。犯罪や非行とは、法律を破ること、してはならない行いをすることです。最近のことでいえば、大阪で私たちと同じ中学生が男性に殺害されたという事件がありました。私はこのニュースを見てすごく胸が苦しくなりました。自分のひとつ下の中学生が殺されるなんて、普通の生活の中ではとても想像できません。しかしこの事件は決して他人事ではありません。先日講演会があり、薬物について学習する機会がありました。薬物などは、自分の体に悪いだけではなく、周りの人にも迷惑をかけることになります。実際に起きている事件の中にも、シンナーや薬物による影響が考えられるものも多かったです。そのような薬物も私たちの身近なところにあります。このようなことが私たちの住む福岡でも、この福智町でもありえるのです。ある日、被害者になることなく、命をなくしてしまうことが。私は、こう思います。このような悲しい出来事に巻き込まれるのはかわいそうだと。深く考えずに手を出して、自分自身を不幸にする必要はないと。薬物に手を出すつもりはなくても、誘われて不幸の道を歩く必要はないのです。私は、そんな人たちにはっきりと断ってほしいと思います。良いことなんて一つもないことに手を出さず、断れる人こそが勇気のあるカッコいい人だと思います。私はこれから殺人や薬物などを「関係のないこと」と思わず、身近にあるものと考えて、こんな不幸がなくなることを考えていきたいです。そして私と同じように考える人が増えれば犯罪や非行のない平和で幸せな福智町が作れると思っています。

「田川飛翔塾」で学んだこと

金田中2年 松田 のどかさん



毎日同じようなことの繰り返し。こんな日々が何の役立つのかと思うことがあるかもしれません。でも、その一日一日が、自分自身の未来につながっています。わたしがそんな風に考えるようになったのは、今年の夏「田川飛翔塾」に参加したことがきっかけでした。田川飛翔塾とは、将来、田川のリーダーとして活躍できるような人材を育成するためのプロジェクトです。わたしはただ「おもしろそう。行ってみたい。」という好奇心で参加を決めました。飛翔塾は2つの研修があります。様々な分野で活躍されている方々の講義、グループワークなど日頃の学校生活では体験できないようなことばかりです。講義を終了したとき、私の中でリーダーについての意識が「積極性だけでなく、豊富な知識・経験を持ち、変わりゆく社会に対応できる人である。」というように変わりました。初日はグループワークで自分の意見も言うことができない状態でしたが、たくさんの仲間が支えてくれたおかげで、最終日には色々な人と話せるようになっていました。グループワークも、日を重ねるごとに班全員が積極的に意見を出し合い、まとめ、発表するようになりました。飛翔塾で学んだことは「言いたいことははっきり声を出す」、「何事も努力は続ける」ということです。それだけではなく「人とつきあって生きていくにはどうすればいいのか」という、わたしの悩みでもあったことについて考える機会にもなりました。また勇気とチャレンジ精神をもらうこともできました。小さなことでもいいから何かを見つけたら、勇気を出して飛び込んでみるのもいいと思います。わたしはこれからも自分にできることを探し、将来に向けてしっかりと進んでいきたいです。

優しさのあふれる社会

赤池中2年 城戸 優希さん



今年は特に、悲しいニュースを耳にすることが多い気がします。飲酒運転のドライバーが信号無視をし、車に引きずられ亡くなった男の子の話など命が粗末にされている話が多く耳に入り、私は心が痛みました。例えば、「飲酒運転撲滅」を最初に訴え始めた福岡県では今も相変わらず、飲酒したドライバーによる事故がなくなりません。殺人・傷害事件について考えると、「相手を殺すつもりじゃなかった。」と言う人がいますが、自分の都合で相手を傷つけてしまうことは決して起こってはならないと思います。命の大切さ、特に他者の命を考えない人が増えている証拠です。生き物にそれぞれ一つずつしかない命について、他者の命を奪う人、自ら命を絶ってしまった人は、「命」をどのように思っていたのでしょうか。「命」を大切にしていられないと感じてしまいます。年間の自殺者の数は、だいたい前年の10パーセントずつ減ってきています。しかし、この数字はあくまでも、「自殺した」と記録がある人です。自殺と認識されないのは、遺書を残していない人です。遺書を残さずに自殺した人は、変死として考えられるそうです。自殺した人と変死をした人を合わせると11万人います。自殺者の数を減らすためには、周りの人々がもう少し「優しさ」を持って接することではないでしょうか。人が命を大切にしたり、命を助け合ったり、命を粗末にせず相手を思いやる気持ちを持てば、きっと明るいニュースが増えると思います。自分で気がつくことと、大人が子供たちに「勇気」や「優しさ」のお手本を見せることが大切だと思います。誰もが「優しさ」と「勇気」を忘れずにいれば、きっと明るい希望のある世界に変わっていくと思います。

主張を聞いて... 講評